



19

ÉDITION



作品を作って誰かに見て買ってもらう状態にクオリティを高めていく時に、どうしても気に入らない作品ができるんですよ。絶対誰、絶対恥ずかしいという醜いアヒルの子が生まれるんですよ。でもその子を破り捨てたいとか、これ大失敗と思うんやけど、絶対取って置くようにして、やっぱり醜いアヒルの子なんやけど、頓悟とかやり終って次が見え始めた時、その最初に排除した特好悪いなと思ったものに原型があるんですよ。これや！っていう。だから失敗は成功のもととかっていう言葉、昔からあるんやけど、僕は失敗とか失敗じゃないんやなって、ただ自分が気づかない。知識がない。見る目がないだけで物事を判断してて、ある程度集中して何かやって一歩登って振り返ったら見えるみたいな。足掻くの好きなんです。失敗する必要性とか。この前もテーブル作って、一番大事な時に同じ失敗をゴゴン繰り返して、もうこんなん誰やって本を新しく買ったんです。買いに行って、持ってきて、そこに置いた瞬間に、えっ！何してたんやろみたいな。これじゃないと思って。失敗したところがそのテーブルの個性になって、みんなそこが気に入って買ってくれて。だから失敗したらいいじゃんって思うよね（笑）。

僕の世の中を見る指標っていうか、fuuちゃんにもプロポーズの時に言ったんですけど、覚えてないかも知らんけど、面白いとこに行くのには面白い船に乗らないといけないんで、それは決して買ったとかして得るものではないんですけど、車に乗って行けるところは車で行けるとこやし、船に乗って行けるところは海の方こう。じゃ面白い、奇跡とかいうか、不思議な世界に行こうと思ったら何に乗るかでね。車の運転を極めて神の声を聞くアイルトン・セナみたいなけど、自分で何かを作るっていうことが僕の船で、筆だったり刃物だったりがオールみたいな感じで、その世界に入っていく乗り物で面白い島に辿りつける。だから諦められない。

自分が生まれたところがあんまり好きじゃなくて、歌しいものとか面白いところも外やと思って、どんどん外に出て行って、日本も出たくなくて日本も出て、新しいものとか不思議なものは常に外にあると思ってたのが、実は旅を繰り返すたびに、最近な良さを気づくためにわざわざ外に行っていたみたいなのが思ったんで、近しいものとか当たり前のものに対して、真っ新画面で見えなくなっていて、知らないとこに行った時に、素直に心がリセットされて物事が見えるから、そこが新鮮に見えるだけだよね。国外から戻ってきたら、その嫌だったものは嫌じゃないみたいな。嫌だったものがすごく懐かしいものに変わって、近いと駄目なんですわ、きつと。太陽とかも近かったら焼けるやうじゃないですか、イカロスじゃないけど、太陽に近づいていったら燃えちゃったっていう。その距離感を見失わずに、常に自分の気持ちになるように物事を見たら、世界は不思議に溢れているというか、見たつもりで見てないこと多いじゃないですか。特に自分のことなんか知っているつもりで、友達のことも知っているつもりで、こんなことで怒るんやとか、自分の奥さんこんなことで泣くんやみたいな。だから常に一番所から、自分の主観でしかものを見てないっていうところをもうちょっと柔らかくしたら、世界は不思議に溢れている。そういうことを伝えたくて、もちろんゴミとか物が古くなっている状態っていう美しさもあって作品作りしているんですけど、身近なものの方っていうものを変えるっていう気持ちで作品を作っている。それは人に対して。

この大きな流れで命のリレーをしてくれるわけじゃないですか。どこかでね。僕の先祖さんが命を継承にしていたら、僕いないわけじゃないですか。ご先祖さんがその継承を大切に守ってなかったら、その継承は絶滅していたかもしれないっていうのをフト考えた時に、今、生きている人たちが絶滅しないというか、せめて自分の好きな人の子供たちが大人になった時に「なんでウッキーさん、あの時やってくれてなかったの？」っていうのは言われたくないという。七世代先ってインディアンは言うんやけど、そういう先のことを考えた時に、なんかやっておきたいし、最初に失敗する人間でいたいみたいな。みんな阿呆いてたっていう。それが僕の表現なのかなって、芸術家として名乗る。だから目に見える前の人の、もう一歩向こうのことを勝手に強迫観念に思っ作っている部分もありますね。

そこら辺にあるようなものでええやん。輪だから顔に入れようじゃなくてもいいやん。顔の具使わなくてもいいやん。みたいなのを遠回しに買いたいのもあります。約束そんなに守らんでもいいっていうか、そんなガチガチせんでもええやん。そういうことを思って買えたらっていうのが一番分かりやすいんでゴミっていうのもある。ただ単にその何かを何かを換えた。役目を終えたものの醜し出す雰囲気が好きっていうのもあります。僕の子供の頃は気持ち悪いと言われてましたもん。それがいつの間にかお金を払えるようになった。子供の時、捨ってきた肌とかを置いて使っていたら、顔に捨てられそうになってましたもん。「なんでそんな汚いもん。小遣いやってない子みたいなことすんな！」みたいな。でも僕は「好きなんやもん。捨てんといて」書くて。綺麗なスーパーボールもいんやけど、畑の隅で見つけたざらざらになったスーパーボールがカッコいいですよ。宝石も綺麗だけど、川で拾ったココアローの「コ」の白いところだけが残った破片とって言葉では言えない、美しいんです。それを並べたりとか、それで何かを作りたいんです（笑）。

(2022年9月・和歌山県にて)

ÉDITION

SCAN ME
ウッキー富士原
富士原ウッキー (@Facebook)



FEEL FREE

artist

ウッキー富士原



2023.9.11

artist

fuu fujiwara



2023.9.11

Special thanks

福中隠命所

Produced by

喜びの共有、循環し



宅配広告社

